

2023年10月6日 全8頁

## Indicators Update

## 2023年8月消費統計

家計調査での実質消費支出は増加も、総じて見れば個人消費は小幅減

経済調査部 エコノミスト 中村 華奈子

## [要約]

- 2023年8月の家計調査における二人以上世帯の実質消費支出は前月比+3.9%、振れの大きな項目を除いた実質消費支出（除く住居等）は同+2.2%といずれも増加した。
- 供給側統計である商業動態統計を見ると、CPIの財指数で実質化した小売販売額は前月比▲0.2%だった。複数の統計で補正したCTIミクロで見た実質消費は同▲1.1%、CTIマクロでは同▲0.1%といずれも減少した。総じて見れば、2023年8月の個人消費は前月から小幅に減少したと判断される。
- 2023年9月の個人消費は前月から横ばい圏で推移したとみている。10月以降は緩やかながらも増加基調を辿ろう。賃金上昇率の高まりなどが個人消費を下支えするだろう。他方、物価高の継続は引き続き懸念材料だ。度重なる値上げなどによる消費マインドの悪化が個人消費の回復を遅らせる可能性には注意が必要だ。

図表1：各種消費指標の概況（単位：%）

統計		2023年4月	5月	6月	7月	8月	出所	
需要側	実質消費支出（家計調査）	前年比	▲4.4	▲4.0	▲4.2	▲5.0	▲2.5	総務省、二人以上世帯
		前月比	▲1.3	▲1.1	0.9	▲2.7	3.9	
	実質消費支出（CTIミクロ）	前年比	0.6	▲1.3	▲3.1	▲1.9	▲1.4	総務省、二人以上世帯
		前月比	▲0.2	▲0.5	▲1.3	0.7	▲1.1	
供給側	小売販売額	前年比	5.1	5.8	5.6	7.0	7.0	経済産業省
		前月比	▲1.1	1.4	▲0.6	2.2	0.1	
	百貨店売上高	前年比	8.6	6.3	7.0	8.6	11.8	日本百貨店協会
	コンビニエンスストア売上高	前年比	4.9	5.3	3.2	5.1	6.1	日本フランチャイズチェーン協会
	スーパー売上高	前年比	3.4	2.2	2.1	4.9	3.4	日本チェーンストア協会
	外食売上高	前年比	15.8	11.8	11.8	14.2	16.6	日本フードサービス協会
旅行取扱高	前年比	93.8	80.5	42.6	60.4	-	観光庁	
需要側+供給側	実質消費（CTIマクロ）	前年比	1.1	0.5	0.2	0.4	0.6	総務省
		前月比	▲0.2	▲0.2	0.0	0.1	▲0.1	

(注1) 百貨店売上高、コンビニエンスストア売上高、スーパー売上高の前年比は店舗数調整後。

(注2) 旅行取扱高（前年比）は大和総研による試算値。

(出所) 各種統計より大和総研作成

## ＜8月の消費総括＞総じて見れば前月から小幅に減少

需要側統計である家計調査における二人以上世帯の実質消費支出は前月比+3.9%と2カ月ぶりに増加した（**図表1**）。振れの大きな項目を除いた実質消費支出（除く住居等）も同+2.2%と増加した。他方で、供給側統計である商業動態統計を見ると、CPIの財指数で実質化した小売販売額は同▲0.2%であった。複数の統計で補正したCTIミクロで見た実質消費は同▲1.1%、CTIマクロでは同▲0.1%といずれも減少した。総じて見れば、2023年8月の個人消費は前月から小幅に減少したと判断される。

## ＜家計調査（需要側）＞「住居」や「交通・通信」など5費目が前月から増加

8月の家計調査を費目別に見ると、10大費目<sup>1</sup>のうち「住居」（前月比+21.2%）、「交通・通信」（同+11.7%）、「教育」（同+10.2%）、「教養娯楽」（同+7.5%）、「その他の消費支出」（同+2.1%）の5費目が前月から増加した（**図表2**）。「住居」では設備修繕・維持などへの支出が拡大した。前月の大幅減の反動やサンプル数の少なさに起因する単月の振れなどによる動きとみられる。「交通・通信」では自動車等購入が全体を押し上げた。「教育」では授業料等が増加した。「教養娯楽」では、宿泊料やパック旅行費といった教養娯楽サービスが全体を押し上げたほか、テレビなどの教養娯楽用耐久財への支出が拡大した。「その他の消費支出」は3カ月ぶりに増加した。

図表2：実質消費支出（費目別）の前月比変化率

前月比、%	2023/1	2023/2	2023/3	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	シェア (%)
消費支出	2.7	▲2.4	▲0.8	▲1.3	▲1.1	0.9	▲2.7	3.9	100.0
食料	2.6	▲0.1	▲1.7	0.3	▲0.1	▲1.5	0.8	▲1.1	28.2
住居	0.1	5.0	▲1.5	▲10.9	8.5	16.1	▲18.4	21.2	6.4
光熱・水道	6.6	10.8	▲4.5	▲5.1	0.1	▲6.3	2.0	▲3.0	8.4
家具・家事用品	▲0.4	0.0	▲2.0	0.2	▲4.6	▲11.6	20.2	▲7.7	4.3
被服及び履物	▲11.2	6.9	3.0	▲7.3	▲1.3	4.4	7.1	▲9.6	3.3
保健医療	▲9.9	4.0	10.1	▲0.6	▲6.3	▲0.6	1.8	▲2.3	5.1
交通・通信	21.9	▲20.1	8.6	3.0	▲19.0	21.9	▲13.6	11.7	14.3
教育	▲21.2	▲0.7	▲2.4	9.8	13.9	▲17.1	0.0	10.2	3.9
教養娯楽	9.0	▲4.5	2.0	▲6.9	0.7	▲3.3	▲0.9	7.5	9.5
その他の消費支出	▲1.3	▲2.6	▲6.2	2.0	1.2	▲2.0	▲0.4	2.1	16.7

(注1) 二人以上の世帯。総務省による季節調整値。

(注2) 「その他の消費支出」は名目金額指数（季節調整値）を、CPIの持家の帰属家賃を除く総合指数で実質化した値。

(注3) シェアは2022年の数値。

(出所) 総務省統計より大和総研作成

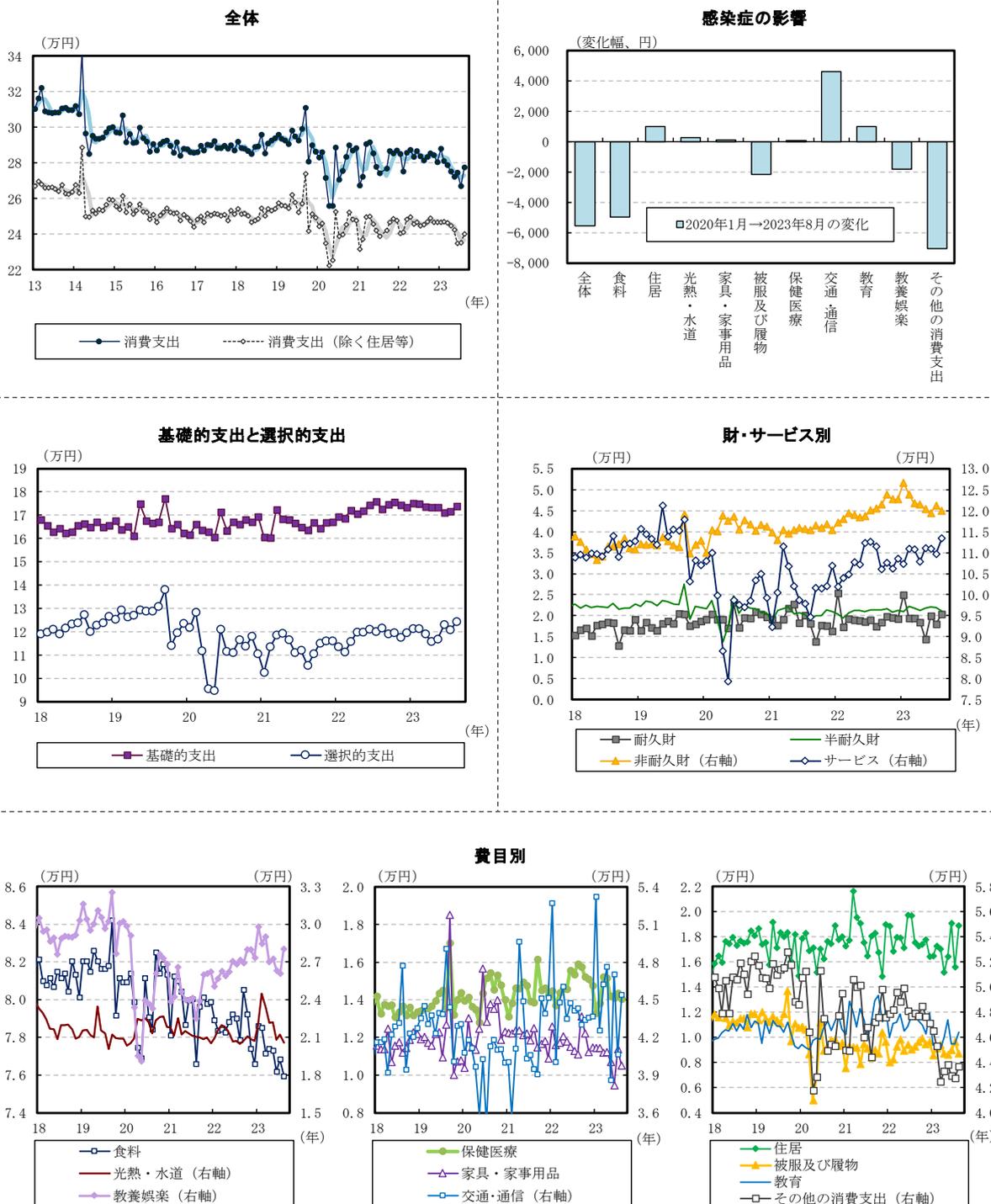
<sup>1</sup> 総務省による季節調整値。「その他の消費支出」の実質化は大和総研による。

他方で、「被服及び履物」（前月比▲9.6%）、「家具・家事用品」（同▲7.7%）、「光熱・水道」（同▲3.0%）、「保健医療」（同▲2.3%）、「食料」（同▲1.1%）の5費目は減少した。「被服及び履物」は3カ月ぶりに減少した。8月は全国的に記録的な猛暑となるなど平均気温が平年よりも高く推移したこと（p.8上段）で、夏物商品の需要は前月に続き堅調であった半面、秋物商品の需要が例年よりも弱かったとみられる。「家事・家具用品」では、電気冷蔵庫といった家事用耐久財や冷暖房用器具などが全体を押し下げた。「光熱・水道」では電気代やガス代、上下水道料への支出が、「保健医療」では医薬品などへの支出が縮小した。「食料」は2カ月ぶりに減少した。

基礎的支出は前月比+1.4%、選択的支出は同+2.8%といずれも増加した（大和総研による季節調整値、**図表3左中**）。

財・サービス別に見ると（大和総研による季節調整値）、耐久財（前月比+13.2%）とサービス（同+3.3%）は増加した一方、半耐久財（同▲4.0%）と非耐久財（同▲1.0%）は減少した。耐久財では自動車などが、サービスでは宿泊料などの教養娯楽サービスが全体を押し上げた。他方、半耐久財では被服などが、非耐久財では電気代やガス代、医薬品などが減少した（**図表3右中**）。

図表3：実質消費支出（季節調整値、2020年基準）



(注1) 二人以上の世帯。基礎的支出と選択的支出、財・サービス別支出は大和総研による季節調整値、それ以外は総務省による季節調整値。  
 (注2) 「消費支出（除く住居等）」は、消費支出から「住居」「自動車等購入」「贈与金」「仕送り金」を除いた数値。  
 全体の図中の太線は3カ月移動平均。  
 (注3) 「その他の消費支出」は名目金額指数（季節調整値）を、CPIの生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数で実質化した値。  
 (注4) 各費目で個別に季節調整されているため、その合計は消費支出全体の季節調整値と一致しない。  
 (出所) 総務省統計より大和総研作成

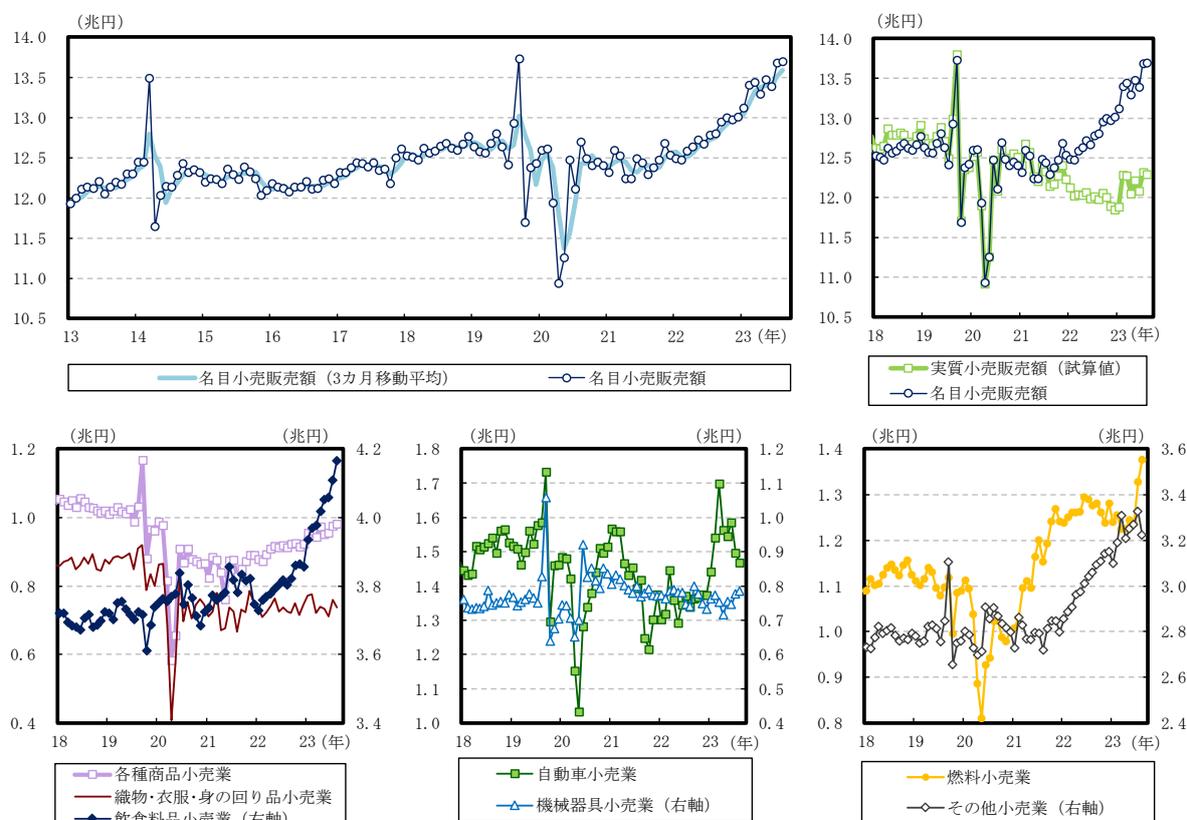
## ＜商業動態統計(供給側)＞「燃料小売業」や「飲食料品小売業」などが前月から増加

2023年8月の商業動態統計によると、名目小売販売額は前月比+0.1%と小幅ながら2カ月連続で増加した(図表4、5)。他方、CPIの財指数で実質化した小売販売額は同▲0.2%と2カ月ぶりに減少した。経済産業省は、名目販売指数における基調判断を「上昇傾向にある」に据え置いた。

名目小売販売額を業種別に見ると、「燃料小売業」(前月比+3.7%)と「飲食料品小売業」(同+1.4%)、「機械器具小売業」(同+0.9%)、「各種商品小売業」(同+0.6%)の4業種が増加した。「燃料小売業」では、ガソリンや灯油などの燃料価格の上昇が引き続き販売額増加に寄与した。「飲食料品小売業」では値上げの影響に加え、前述の天候要因などもあり、アイスクリームやソフトドリンクや酒類などの販売が好調だった。

他方、「織物・衣服・身の回り品小売業」(前月比▲3.0%)と「その他小売業」(同▲3.0%)、「自動車小売業」(同▲1.9%)の3業種は減少した。「織物・衣服・身の回り品小売業」は、上述の天候要因から夏物商品の販売は前月に続き好調だった一方、秋物商品の立ち上がりが不調であったことが要因とみられる。「その他小売業」は4カ月ぶりに減少した。「自動車小売業」は2カ月連続で減少した。

図表4：名目小売販売額（季節調整値）の推移



(注1) 経済産業省による季節調整値。各業種で個別に季節調整をかけているため、その合計は「小売業計」と一致しない。

(注2) 「小売業計」は「無店舗小売業」を含む。「その他小売業」は「医薬品・化粧品小売業を含むその他小売業」。

(注3) 実質小売販売額は、名目小売販売額をCPI(2020年基準)の財指数で実質化したもの。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

図表 5：小売販売額（業種別）の前月比変化率

前月比、%	2023年									シェア(%)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
小売業計	0.8	2.1	0.3	▲1.1	1.4	▲0.6	2.2	0.1		100.0
各種商品小売業	3.6	0.6	▲2.0	3.2	▲2.4	0.5	2.0	0.6		7.1
織物・衣服・身の回り品小売業	3.5	0.7	▲7.0	2.3	▲0.6	▲3.1	6.8	▲3.0		5.6
飲食料品小売業	2.0	0.9	0.2	1.0	0.8	0.2	1.2	1.4		29.5
自動車小売業	4.9	7.0	10.1	▲8.0	▲1.1	2.6	▲5.7	▲1.9		10.5
機械器具小売業	4.1	1.2	▲2.6	▲4.8	5.4	▲1.0	4.2	0.9		6.3
燃料小売業	▲3.2	1.2	▲2.4	▲0.1	1.7	▲0.6	7.4	3.7		9.9
その他小売業	▲1.6	2.9	3.7	▲3.1	1.3	0.6	1.7	▲3.0		23.7

(注1) 経済産業省による季節調整値。

(注2) 「小売業計」は、「無店舗小売業」を含む。「その他小売業」は、「医薬品・化粧品小売業を含むその他小売業」。

(注3) シェアは、2022年の数値。「無店舗小売業」の系列が無いため、各系列のシェアを合計しても100%にはならない。

(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## ＜先行き＞緩やかな増加基調を辿る見込みも、物価高によるマインド悪化は懸念材料

業界統計や個社データ、JCB 消費 NOW を基に判断すると、2023 年 9 月の消費は前月から横ばい圏で推移したとみている<sup>2</sup>。

9 月の消費を財・サービス別に見ると、財消費のうち百貨店大手 3 社の既存店売上高は 2019 年同月比で前月から伸び率が低下した。新車販売台数は前月から減少した一方、家電消費額は小幅に増加した（大和総研による季節調整値）。サービス消費のうち、新幹線輸送量は 2019 年同月比で前月からマイナス幅が縮小した。宿泊消費額や外食消費額は減少した。移動人口の動向を見ると（p. 8 中段）、下旬にかけて減少し、2019 年同週を 2%程度下回った。

10 月以降の消費は緩やかながらも増加基調を辿ろう。外食や旅行を中心に、サービス消費の回復が続くとみている。財消費のうち自動車については、足元の落ち込みは一時的な動きとみており、挽回生産の進展を受けて販売台数は高水準を当面維持するだろう。なお、自動車の挽回生産については、2023 年度中の継続を見込んでいる<sup>3</sup>。加えて、労働需給のひっ迫を受けた賃金上昇などが個人消費を下支えすることが期待される。

他方、物価高の継続は引き続き懸念材料だ。原材料高を主因とした値上げは一旦落ち着きを見せているものの、10 月には再び値上げラッシュが訪れる。人件費などの上昇も続いており、秋以降も値上げが断続的に行われるだろう<sup>4</sup>。さらに、長引く物価高などを背景に消費マインドも落ち込んでいる。9 月の消費者態度指数は 35.2 と 2 カ月連続で前月から悪化し、内閣府は基調判断を「改善に向けた動きに足踏みがみられる」に下方修正した。消費マインドが一段と悪化すれば、個人消費の回復が遅れる可能性がある。

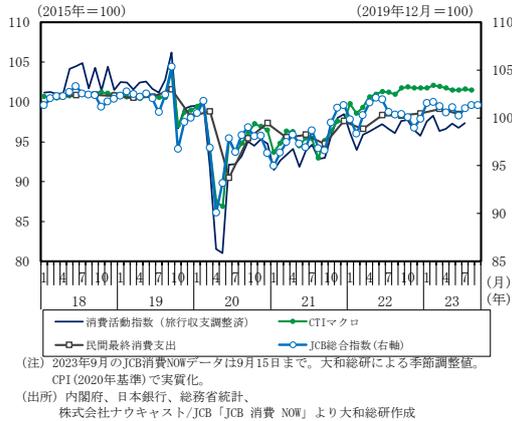
<sup>2</sup> 詳細は、拙稿「消費データブック（2023/10/3号）」（大和総研レポート、2023年10月3日）を参照。

<sup>3</sup> 詳細は、熊谷亮丸他「第218回日本経済予測（改訂版）」（大和総研レポート、2023年9月8日）を参照。

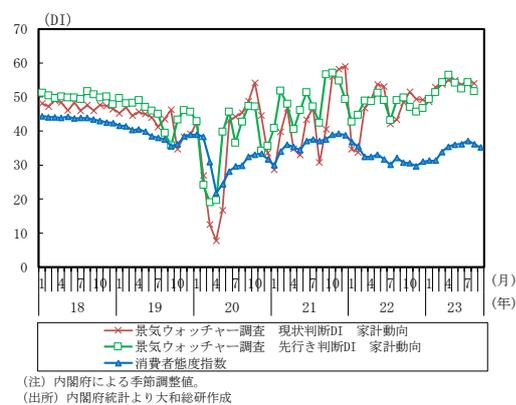
<sup>4</sup> 詳細は、帝国データバンク「『食品主要195社』価格改定動向調査—2023年10月」（2023年9月29日）を参照。

消費・概況

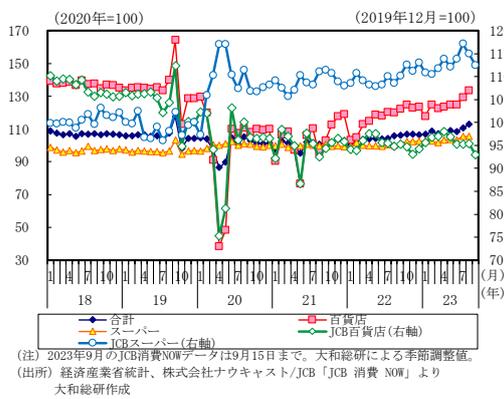
GDPベースの民間最終消費支出と各種消費指数



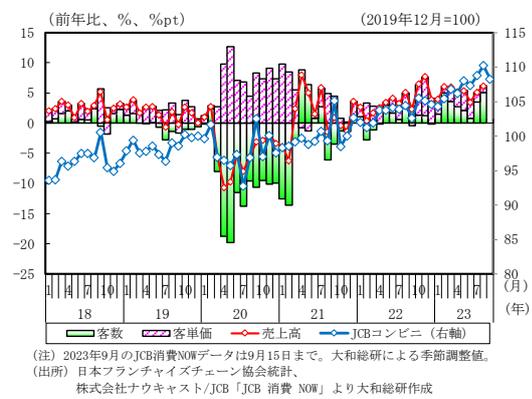
消費者マインド



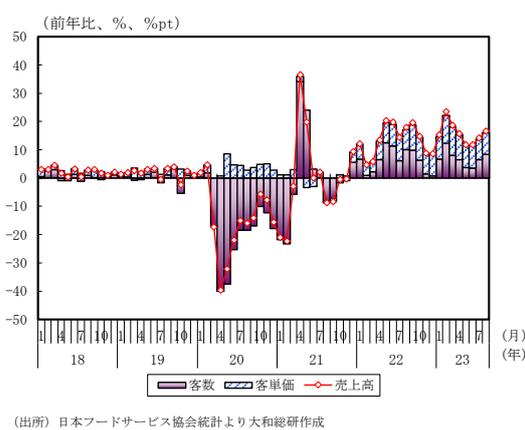
大型小売店業態別商品販売額



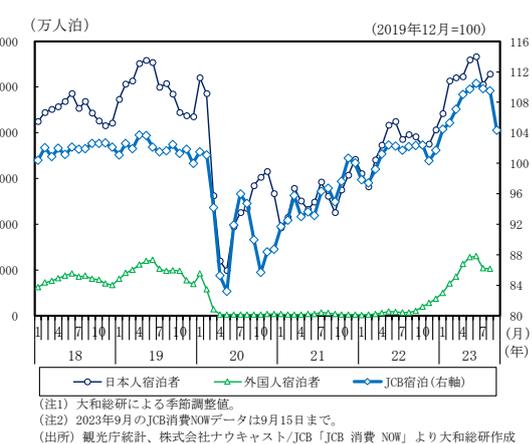
コンビニ売上高(店舗数調整前)



外食市場売上高

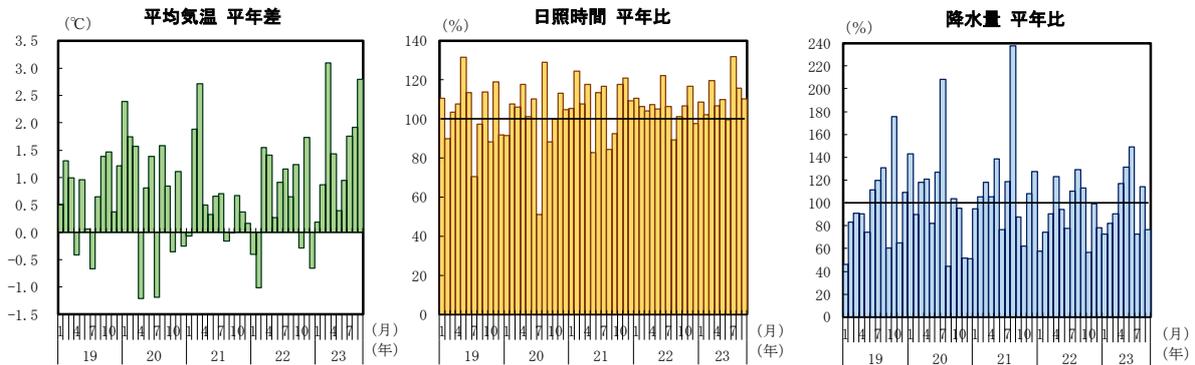


宿泊者数



天候

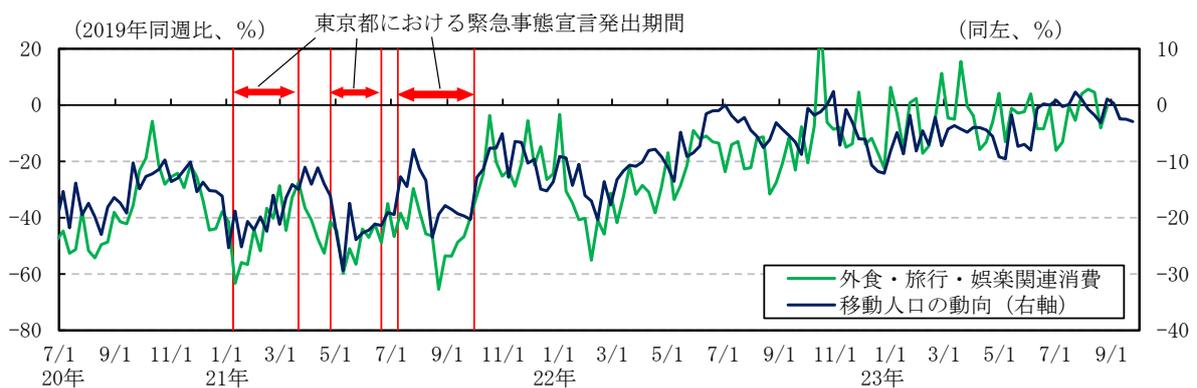
全国の平均気温・日照時間・降水量



(注) 東日本、西日本、北日本、沖縄・奄美のデータを2020年国勢調査の人口で加重平均したもの。  
 (出所) 総務省、気象庁統計より大和総研作成

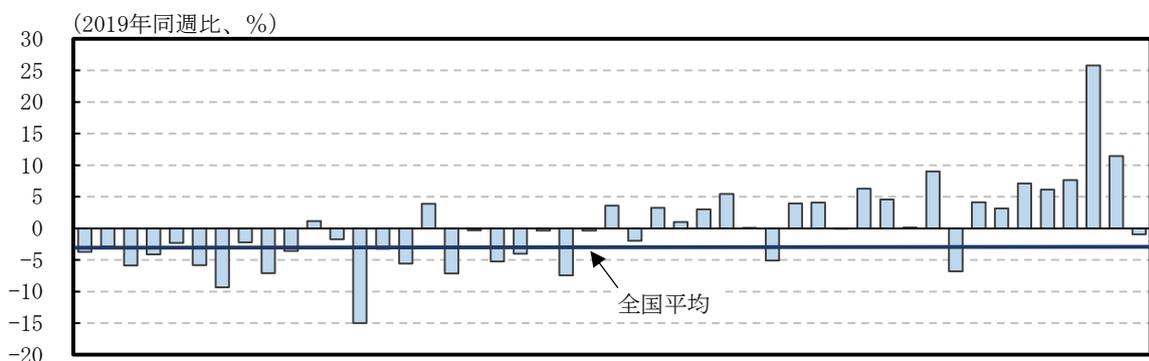
人出

外食・旅行・娯楽関連消費と移動人口の動向（直近値 9/24）



(注) 移動人口は全ての市区町村の「推定居住地が市区町村外のもの」の人口を週ごとに集計したもの。  
 外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。  
 (出所) 総務省統計、V-RESASより大和総研作成

移動人口の動向（9/18～9/24 週、都道府県別）



北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖  
 海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児縄  
 道  
 (出所) V-RESASより大和総研作成